



～ PROFILE ～

氏名：中村 麻矢（なかむら まや）

出身：宮城県

前職：グルメライター

特産品開発などを担当

地域おこし協力隊になったきっかけは？

狩猟をきっかけに広尾町を訪れ、一時期は広尾町内のツーリズム団体の広報として活動していました。その後、広尾町が特産品を使った商品開発などを担当する地域おこし協力隊の募集をしていることを知り、地域おこし協力隊になったら猟師もしながらいろいろな挑戦させてもらえるかな？と思ったのがきっかけです。



日々の活動を教えてください！

最初の頃は、商品をたくさん開発したほうが良いのかなと思っていましたが、広尾町の特産品は意外とあって、デザインや宣伝方法などアウトプットが上手くできていないことに気づきました。課題がどこにあるのかが見えてきたので、販売方法を工夫するなど、今あるものをどう活かすかを考えています。

また、広尾町の課題として、経産牛や売り物にならない魚の使い道など、食の課題がたくさんあり、それらを解決できるような商品を作りたいなと思っています。今は広尾町産の昆布・塩・経産牛を使った加工品の試作を重ねるところです。ただ、商品化するには様々なハードルがあり、その解決策を調べれば調べるほど、なぜかハードルが高くなっていきます(笑)悩むことはたくさんあるけど、初めての商品開発、楽しく取り組んでいます！



今後の展望・目標は？



広尾町の山と鹿が大好きなので、できることなら広尾町で鹿の解体施設を構えて、鹿肉の加工品などを作りながら腰を据えられたらと思っています。夫とは北海道と東京の遠距離で、月に1回程度会うような二拠点結婚ですが、互いに腕を磨いて、今までにない新しいライフスタイルを模索・確立したいです。

広尾町（十勝）の魅力を教えてください！

自然が近いのが気持ちいいです。キツネやクマやウサギやたくさんいて、自然と共存している感じが好きです。東京にいと隣の家との物理的距離が近すぎて、陽の光も入ってこないし、隣の家の聞きたくない音楽が聞こえてきたりするけど、今は家と家との距離が空いていて、窓もたくさんあって陽の光が入ってきます。

あとは家賃が安いのも魅力的です。東京の家は1Kで9万円だったのに、広尾町の家は庭付き6LDKの一軒家で4万円！（笑）部屋がたくさんあるので、狩猟の見学希望者などに、ゲストハウスのように泊まってもらったりしています。



～広尾町について～

北海道十勝管内の最南端に位置し、東は北海道有数の農業資源を有する太平洋、西は日高山脈の山並みがそびえ立ち、その山系に源を持つ4本の河川が海に注ぎ、豊かな自然を生かした漁業を中心に農林業を基幹産業として発展してきました。

昭和59年にノルウェーのオスロ市から国外初のサンタランドの認定を受けて以来、「愛と平和、感謝と奉仕」を基本理念としてサンタランドにふさわしい町づくりに取り組んでいます。（広尾町HPより）



▲広尾町のキャラクター
さーたちちゃん